

4. 事業報告

創立 50 周年の通常総会に際して

本年は本協会創立50周年に当り、本会ではこれを記念するための諸行事を計画実施した。会誌の記念特集号「鉄鋼技術の進歩」は世界の鉄鋼技術を背景として最近10年間に特に発展の著しかったわが国の新技術ならびに新製品を取り上げ、そこから現状における問題点と将来の発展の方向を見極めようとしたものである。

「日本鉄鋼協会50年史」は、創立から今日に至るまでの本会の活動状況を中心として本会発展に直接関係のあつた鉄鋼業界および学界の推移をまとめたもので、これから本会の今後の発展の方向についての示唆が与えられるであろう。

創立50周年記念式典については計画発表と同時に国内外に反響を呼び、英、米、独、仏、伊、オランダ、ベルギー、オーストリー、オーストラリア、ラテンアメリカ、印度の諸国の鉄鋼協会、あるいは鉄鋼連盟の代表者など、慶祝のため来日するものが合計35名（夫人を加え50名）以上に上っている。

その背景をなすものはもちろん、遂に世界第3位の生産量を達成したわが鉄鋼業の飛躍的發展と、高度に進んだ技術水準に注目したためであると思う。

一昨年英国鉄鋼協会がわが国に対し鉄鋼視察団を派遣した際には本協会は視察が有効に行なわれるよう極力あつせんしたが、関係各社、大学、研究所等のご理解とご協力により、同視察団は調査の目的を十分に果すことができた。帰国後の報告書において、公正な判断のもとにわが国鉄鋼業の急速な発展は臨海製鉄所の建設、最新鋭の機械・技術の採用、勤勉優秀な人材の育成と合理的運営によることを結論した。これは第三者による評価として各国のわが国鉄鋼業に対する認識を改めさせ新たな関心を引き起させるにあづかつて力があつた。

昨年春は英国に対し本協会から鉄鋼視察団を派遣し、同国の実情をつぶさに視察し、英国鉄鋼協会および業界との親交を深めたが、その後も同協会主催の連続鋳造、真空脱ガスなどの会議に対し技術者の派遣が行なわれた。

一方、英国をはじめ諸外国からの鉄鋼人の来訪も次第に頻繁を加えており、今回の記念式典が一頂点をなすものであろうが、このような国際交流の傾向は今後ますます盛んになるであろう。

わが鉄鋼業の現状と短期間における発展の激しさが明らかになるとともにわが業界の一挙手一投足は世界の注視を浴びている。日本の鉄鋼業は今や世界の鉄鋼業に成長したものと考えられ、今後わが業界は世界全体の鉄鋼業を考え、その立場から施策、計画を立てることが必要である。

近年におけるわが鉄鋼業の発展はわが国経済の発展期に際会したこと、有利な立地条件に着目したこと、最新の設備・技術を大胆に導入、採用したことなどによるものと考えられるが、今後の発展の新生面を拓くことは容易でない。将来進むべき方向としては、独自の新技術の開発と、それに結びつく基礎研究の振興に力を尽す外ないであろう。

本協会としても新技術開発と将来の開発に役立つ基礎研究の振興に密接する事業を行なうことが使命であると考え、会員諸賢のご支援ご協力をえ、関係学会、諸団体、機関と密接の連絡を保ちつつこれを遂行する決意である。

わが鉄鋼界が海外からの注目を受けているこの時機に、本協会が創立50周年を迎えたことは極めて意義深いことであり、幾多先輩のご功績をはぶかしめないよう努力したい。